

平成29年12月21日

平成29年度二学期終業式 あいさつ

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

校標の精神を心に、厳しい自然を生き抜く樹木のように

にかほ市両前寺在住で本校65期卒業生の三浦春夫さんという方が、将来を担う本高生をぜひ支援したいということで、この度、プロジェクター、電動スクリーン、液晶テレビ、BSアンテナ、図書等を本校に寄贈されました。在校生の時々の活躍を喜び、母校を応援してくださる御厚意に深く感謝するとともに、本校が多くの学校関係者や地域の方々から様々な応援していただいていることを紹介しておきます。

生徒の皆さん、「凍裂」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「凍」は、凍結の「凍」、二水に東、「凍える」の「凍」。「裂」は、亀裂の「裂」、「裂ける」の「裂」です。

「凍裂」は、大木が凍結して、零下25度以下で弾けるように裂けてしまうことを意味します。過酷な冬の寒さが支配する静謐な森の中で、トドマツなどは、「バチーン」と澄んだ音を森中に響き渡らせます。痛々しい縦状の傷跡が残りますが、トドマツにとって「凍裂」は致命傷にはならず、まるで痛々しい傷跡をたくましさの勲章とするかのように、苛烈な自然の中を生き抜いていきます。

また、本来、温暖な地域に育つ常緑樹の楠木は、葉に雪が降り積もり、その重みに耐えられない時、枝の付け根が裂けるように折れてしまうことがあります。見た目にも痛々しい姿になりますが、雪による枝折れは、厳しい自然を生き抜いていく樹木には折り込み済みで、春には傷口から新しい枝を芽吹かせます。

そして、桜。桜は、実にこまやかで、計画性・自己規制があり、自然と同調する性質をもつ落葉樹です。夏には、翌年の春に咲かせるつぼみの準備をし、地球の周期、つまり日照を利用して花が咲き出さないよう、休眠スイッチを入れます。逆に、冬はその寒さに耐えているように見えて、実は、厳しい冬の寒さによって、目を覚まします。まるで真冬に行われる滝行のように、厳しい寒さに打たれることによって、自己を覚醒させるのです。そして、今は純白の雪に覆われている本校の桜坂の桜の木々も、春にはその温かさに歩調を合わせるかのように、淡いピンクの花を咲かせます。

「努力しても成功するとは限らないが、成功している人は必ず努力をしている。」

これは、今年J3で優勝したブラウブリッツ秋田のMF 前山恭平選手が、県内の多くの小学校で、夢を持つことの大切さや夢を追いかけることの重要性を伝える活動「ゆめすく」で紹介し、小学生たちを励まし、勇気づけている言葉です。前山恭平選手自身も、中学校時代の恩師のこの言葉を胸に、今もJ1リーガーへの夢に向かってチャレンジを続けています。

「日本代表の他のペアは、自分たちがこのままではいけないと気づかせてくれる存在。刺激をもらい、切磋琢磨したい。」

今年12月のバドミントン・スーパーシリーズファイナルの女子ダブルスで優勝、県内の特別

支援学校への訪問活動でも知られる世界ランク6位の北都銀行「ヨネタナ」組の^{よねもと こはる}米元小春 選手の、優勝後のコメントです。2020年の東京五輪代表をにらみ、リオ五輪金メダルで世界ランク2位の高橋・松友組（日本ユニシス）、今回の決勝の相手で世界ランク5位の福島・広田組（再春館製薬所）、そして世界ランク7位の^{ふくまんとよなお}福万・与猶組（ヨネックス）と、国内でライバルがひしめいている状況を踏まえての言葉です。

最後に、大学受験を控えている3年生の皆さんに、今年1月のセンター試験直前にある全国紙に掲載されたシカゴ・カブス所属^{うえはらこうじ}上原浩治 さんの受験生へのメッセージを紹介します。上原さんは、2013年抑え投手として米大リーグ・レッドソックスの世界一に貢献。厳しい環境と挫折を乗り越え、まさにトドマツのように魅力ある生き方を貫いている野球選手です。

「不安だから努力」今も

体育教師になりたかったので、高校生の時は大阪体育大学を受験しました。結果は推薦入試、一般入試ともに連敗。予備校で中学校レベルの勉強からやり直しました。

勉強は相当嫌いだった。全部が嫌いな科目。「何でこんなことしないとあかんねん」って思っちゃう。特につらかったのは、大学に進学した同級生がスポーツで活躍するニュースを見た時。「自分は何やってるんやろ」と不安になりました。

大学に早く受かりたいと思って一段飛ばしできない。コツコツ勉強して大阪体育大学に合格しました。40歳を過ぎて野球が続けられるのも、浪人した1年があったから。忍耐力がついたんだと思います。

巨人時代から背番号はずっと19。これは「浪人した19歳を忘れないように」という意味。結果が出ない時にふと19番を見ると、「野球ができなかったあの時と比べれば、打たれようが野球ができている」。自分の原点に戻れるんです。

受験生にとって、今は不安な時期。僕も今季のプレーについては、不安が大きい。でも不安だから練習する。受験も同じです。最終的になるようにしかないと思って、努力するしかない。一生懸命努力したやつのことを神様はきっと見ています。

（朝日新聞、平成29年1月12日掲載）

本校は、文と部の両方を重んじる「右文尚武」、飾り気なく強く健やかである「質実剛健」、切磋琢磨し共に高めあう「玲瓏同氣」を、これまで脈々と校標とし、多くの卒業生が巣立っています。

厳しい自然の中を^{りん}凜と生き抜く樹木のように、たとえつらい冬の環境の中にあっても、たくましく、やわらかく、かつ、自己規制をもつ力は、きっと皆さんの未来を拓く力となるはずで

す。3年生の受験生の皆さん、苦しさを乗り越えた経験は、必ず将来に生きます。峻烈な寒さによってこそ自己を覚醒させる桜のように、受験という厳しい冬の時期に、自己の可能性にチャレンジすることの意義、青春をよりよく生きるということの価値に覚醒し、困難を乗り越え、春に喜びの花を咲かせられるよう、悔いのない努力の日々を送ることを祈っています。桜坂の桜の木々も、今、春に向け自己を覚醒させ、そして皆さんをいつも静かに見守っています。

そんな皆さんを、3年部の先生方のみならず、本校の全教職員が最後まで応援し続けます。